

80 がん専門医療施設の看護師に求められる専門性と高度専門的技術の実施に関する検討

児玉 有子 東京大学医科学研究所

研究の分類・属性

疫学・公衆衛生・がん対策

研究の概要

本研究の目的は、がん専門病院の看護師に必要な専門性およびがん専門病院のチーム医療における役割・業務分担について患者視点から検討し、明らかにすることである。

具体的には、(1) がん専門病院に勤務する医療者を対象に、がん専門病院における医療者間の役割分担に関する調査を実施、分析する。(2) がん専門病院に通院中の患者を対象に看護師に求める役割等を調査分析し明らかにする。(3) 専門病院に勤務する看護師がより高度で専門的な役割・業務を担えるよう、専門的看護技術の活用を実現するために必要な現任教育プログラム、および制度を検討し提言する。

本年度には、患者から期待されるがん専門病院の看護師の役割や業務内容に関する調査を実施した。インターネットを通じて情報提供し協力が得られたがん患者 30 名の面接調査を実施した。調査結果をふまえ、多数の症例を対象としたアンケート調査を計画し、質問紙を作成した。情報工学分野の専門家の研究協力を得て調査結果の分析手法の検討を行った。

がん専門病院に勤務中あるいは過去に勤務経験のある医療従事者を対象にしたインタビュー調査により、がん専門病院における職種間の役割分担に関して現状分析を実施した。さらに多くの施設において今後アンケート調査を計画している。

さらに、制度や現任教育プログラム制度の検討のため、特に中国におけるがん専門病院における看護師の役割に関する実態や制度に関する調査を実施した。

3年目には、さらに調査分析を進め、研究成果をふまえ専門的看護技術活用のために必要な制度を提言する。がん専門病院における看護師の業務拡大に関する患者、国民の理解を評価する。

研究経費

年度	
平成22年度	6,650 千円
平成23年度	5,320 千円

研究班の組織

児玉有子	東京大学医科学研究所・特任研究員	総括
的場 元弘	国立がん研究センター中央病院 緩和医療科・精神腫瘍科・科長	がん緩和医療領域、地域連携における看護の専門性と業務分担

宮下 徹也	横浜市立大学附属病院・准教授	がん周手術期領域における看護の 専門性と業務分担
山口 拓洋	東北大学大学院医学系研究科・教授	生物統計学的検討

研究の目的と到達目標及び実績要点

全期間

(目的と到達目標) :

本研究の目的は、がん専門病院の看護師に必要な専門性およびがん専門病院のチーム医療における役割・業務分担について患者視点から検討し、明らかにすることである。

具体的には、主に3点の研究を年度順に進める。(1) がん専門病院に勤務する医療者を対象に、がん専門病院における医療者間の役割分担に関する調査を実施、分析する。(2) がん専門病院に通院中の患者を対象に看護師に求める役割等を調査分析し明らかにする。(3) 専門病院に勤務する看護師がより高度で専門的な役割・業務を担えるよう、専門的看護技術の活用を実現するために必要な現任教育プログラム、および制度を検討し提言する。

第2年次

(到達目標)

- 1 患者から期待されるがん専門病院の看護師が果たす役割や業務内容についてインタビュー調査を通じ検討する。
- 2 がん専門病院における医療者間の役割分担についてインタビュー調査を通じ実態調査を行う。
- 3 がん専門病院の看護師の役割についての日中比較と臨床における現任教育システムについての事例分析を行う。

(年次評価時点の実績要点)

患者から期待されるがん専門病院の看護師が果たす役割や業務内容を明らかにすることを目的に、研究1年目より引き続き、がん患者30名を対象とした面接調査を行った。面接調査の結果の分析方法を、情報工学分野の専門家と共同で検討し、データマイニング手法を用いた分析を実施した。これらの結果を検証するためにアンケート手法を用いた実証研究を実施予定であり、質問紙作成を行った。

がん専門病院における医療者間の役割分担に関する調査研究を実施した。がん専門病院に勤務している医療従事者や勤務経験のある医療従事者を対象に、がん専門病院における医療者間の役割分担についてインタビュー調査を実施した。インタビュー内容の分析方法の検討を、情報工学分野の専門家と行った。さらにこれらの結果を検証するために、今後、アンケート手法を用いた実証研究を予定している。

がん専門病院の看護師の役割について、海外事例との比較検討を行った。看護師の現任教育システムについての事例分析等の共同研究を上海交通大学医学院附属瑞金病院看護部と実施予定であり、共同研究協定締結にむけた作業を開始した。

研究方法

本研究の研究1年目はがん専門病院における看護業務や患者の看護師業務に対するニーズについてフォーカスグループディスカッション (FGD) の手法を用いて分析検討を行った。

平成23年度

患者から期待されるがん専門病院の看護師が果たす役割や業務内容については、1年目に実施したフォーカスグループディスカッションを継続し、がん患者対象にインタビュー調査を行う。インタビュー内容の分析方法については情報工学専門家との検討を実施し、データマイニング手法を用い分析する。これらの研究により患者から期待されるがん専門病院の看護師が果たす役割や業務内容について明らかにする。さらにこれらの結果を検証するために、アンケート手法を用いた実証研究を行う。

がん専門病院における医療者間の役割分担については、がん専門病院（国立がん研究センターやがん拠点病院等）に勤務する医療従事者を対象に、がん専門病院における職種間の役割分担についての実態調査を行う。

さらに、制度や現任教育プログラム制度の検討のため、海外のがん専門病院における看護師の役割に関する実態や制度に関する調査を開始する。がん専門病院に勤務する看護師との共同研究により、がん専門病院の看護師の役割についての日中比較と臨床における現任教育システムについての事例分析を行う。看護師のキャリアパスとその教育課程、および患者への影響について明らかにする。また、専門看護師の教育課程や実務内容、規定している法律や制度、政策について情報収集する。さらに、法的な規制や制度上の問題点について諸外国の例も含め整理する。

研究成果と考察

1 患者から期待されるがん専門病院の看護師が果たす役割や業務内容に関する研究

患者から期待されるがん専門病院の看護師が果たす役割や業務内容について、がん患者対象にインタビュー調査を行った。ヒアリングの項目に、がん専門病院看護師との関わりで最も心に残っていること、がん専門病院と一般病院の看護（師）の違い（知識、技術等）、がん専門病院看護師の理想像等について聴取し、分析した。複数の施設における治療経験を有するがん患者 30 名の調査協力を得ることができた。がん専門病院の看護師に期待する役割や、がん看護を経験する中で感じた良かった点、悪かった点を中心にがん看護に対する満足度や不満足な点とそれらに関連する要因について検討した。その結果、外来診療の前後に看護師が関わること、看護師が予測される副作用に対して先回りし具体的情報を提供できること、患者の日常生活における具体的対応策の提示ががん専門病院の看護師の専門性や患者満足度に影響していることが明らかとなった。

2 がん専門病院における医療者間の役割分担に関する研究

がん専門病院に勤務する医療従事者や勤務経験のある医療従事者（多職種）を対象に、がん専門病院における医療者間の役割分担についてインタビュー調査を実施した。その結果、看護師自身ががん看護の専門性を考える上で特に重視している分野として、看護師の観察力、判断力、他職種と積極的に情報交換し議論できる能力、および最新のがん看護につき情報発信する力が指摘された。さらにこれらの能力を高めるためのOn-The-Job、Off-The-Jobトレーニングの機会が少ないことや機会の喪失があることが明らかとなった。看護職が他職種から期待される役割として、特に外来通院中の患者に対する看護、患者への聞き取りなど情報収集等患者への積極的な関わりが抽出された。

3 がん専門病院の看護師の役割に関する海外事例との比較と現任教育システムの検討

がん専門病院の看護師の役割についての日中比較と、臨床における現任教育システムについての事例分析等の共同研究を上海交通大学医学院附属瑞金病院看護部と開始した。中国においては、がん看護に携わる看護師個人の専門性を高めるため、個人の専門特性や希望を重視したキャリアパス選択や、免許保持者の生涯学習、知識の更新機会の保障のための国家レベルでの昇格試験等、人事制度や教育制度が本邦に先がけて整備されてきたことが明らかになった。

これらの結果をもとにさらにアンケート等の実証研究が必要である。

倫理面への配慮

本研究は人体から採取された試料は扱わない。

調査の開始にあたっては、疫学研究に関する倫理指針（平成19年 文部科学省・厚生労働省告示第1号）、「個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第57号）、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第58号）や「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第59号）を遵守し、事前に必要な倫理審査を受け、許可された場合に調査を開始する。

個人情報は原則として収集しない。属性情報については、個人情報保護法を遵守する。

質問紙等データの保管は厳重にし、研究終了5年後に適正に処理し、廃棄する。情報漏洩防止対策を徹底する。

本研究に関連する、本研究期間中の主な発表論文等

2011年度

(雑誌論文)

1. Torigoe K, Nakahara K, Rahmadi M, Yoshizawa K, Horiuchi H, Hirayama S, Imai S, Kuzumaki N, Itoh T, Yamashita A, Shakunaga K, Yamasaki M, Nagase H, Matoba M, Suzuki T, Narita M. Usefulness of olanzapine as an adjunct to opioid treatment and for the treatment of neuropathic pain. *Anesthesiology*. 116:159-169, 2012.
2. Takeda T, Yamaguchi T, Yaegashi N. Perceptions and attitudes of Japanese gynecologic cancer patients to Kampo (Japanese herbal) medicines. *International Journal of Clinical Oncology*. 17:143-149, 2012.
3. Akiyama M, Takebayashi T, Morita T, Miyashita M, Hirai K, Matoba M, Akizuki N, Shirahige Y, Yamagishi A, Eguchi K.. Knowledge, beliefs, and concerns about opioids, palliative care, and homecare of advanced cancer patients: a nationwide survey in Japan. *Supportive Care in Cancer*. 20:923-931, 2012.
4. Narita M, Niikura K, Nanjo-Niikura K, Narita M, Furuya M, Yamashita A, Saeki M, Matsushima Y, Imai S, Shimizu T, Asato M, Kuzumaki N, Okutsu D, Miyoshi K, Suzuki M, Tsukiyama Y, Konno M, Yomiya K, Matoba M, Suzuki T. Sleep disturbances in a neuropathic pain-like condition in the mouse are associated with altered GABAergic transmission in the cingulate cortex. *PAIN*. 152:1358-1372, 2011.
5. Hirai K, Kudo T, Akiyama M, Matoba M, Shiozaki M, Yamaki T, Yamagishi A, Miyashita M, Morita T, Eguchi K.. Public Awareness, Knowledge of Availability, and Readiness for Cancer Palliative Care Services : A Population-Based Survey across Four Regions in Japan. *Journal of Pallia Medicine*. 14(8):918-922, 2011.
6. Kurosawa S, Yamaguchi T, Uchida N, Miyawaki S, Usuki K, Watanabe M, Yamashita T, Kanamori H, Tomiyama J, Nawa Y, Yano S, Takeuchi J, Yakushiji K, Sano F, Uoshima N, Yano T, Nannya Y, Moriuchi Y, Miura I, Takaue Y, Fukuda T. Comparison of allogeneic hematopoietic cell transplantation and chemotherapy in elderly patients with non-M3 acute myeloid leukemia in first complete remission. *Biology of Blood and Marrow Transplantation*. 17(3): 401-11, 2011.
7. Mieno MN, Yamaguchi T, Ohashi Y. Alternative statistical methods for estimating efficacy of interferon beta-1b for multiple sclerosis clinical trials. *BMC Medical Research Methodology*. 26(11): 80-5, 2011.
1. 杉浦 宗敏、宮下 光令、佐藤 一樹、森田 達也、佐野 元彦、的場 元弘、恒藤 暁、志真 泰夫
がん診療連携拠点病院における緩和ケア提供体制と薬剤業務の困難感. *日本緩和医療薬学雑誌*, 4(4):103-109, 2011.

2. 児玉有子. 「中国」における看護のめざましい発展. *看護ジャーナル*. 1(4):14-18, 2011.
3. 古村 和恵、宮下 光令、木澤 義之、川越 正平、秋月 伸哉、山岸 暁美、的場 元弘、鈴木 聡、木下 寛也、白髭 豊、森田 達也、江口 研二. 進行がん患者と遺族のがん治療と緩和ケアに対する要望 –821 名の自由記述からの示唆–. *Palliative Care Research*. 6(2):237-245, 2011.

(学会発表)

1. Matoba M, Yomiya K, Takigawa C, Yoshimoto T; Pain & Symptom Control Research Group (SCORE-G). Efficacy and Safety of Intravenous or Subcutaneous Oxycodone Injection for the Management of Cancer Pain : An Open Trial in Japan. *12th CONGRESS of the EAPC*. 2011.5.18, Lisbon, Portugal.
2. Kokubun H, Yoshimoto T, Hojo M, Fukumura K, Matoba M. Pharmacokinetics of Oxycodone after Intravenous and Subcutaneous Administration in Japanese Cancer Pain Patients, *12th CONGRESS of the EAPC*, 2011.5.18, Lisbon, Portugal.
3. Yoshimoto T, Tomiyasu S, Tamaki T, Hashizume T, Murakami M, Murakami S, Iwase S, Saeki T, Matoba M; Symptom Control Research Group (SCORE-G). ALPHA(Algorithm with the Lists for Palliation by Helping Analgesia)for Palliative Care Team: A Consistency, Multicenter, Preliminary Study in Japan. *12th CONGRESS of the EAPC*, 2011.5.18, Lisbon, Portugal.

(書籍)

1. 特定非営利活動法人日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会 (的場元弘、他) *がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 2011年版*. 金原出版, 2011.
2. 特定非営利活動法人日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会 (的場元弘、他) *がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 2011年版*. 金原出版, 2011.

(知的財産権)

なし

(政策提言 (寄与した指針等))

なし

(その他)

なし

2010年度

(雑誌論文)

1. Narita, M., Niikura, K., Nanjo-Niikura, K., Narita, M., Furuya, M., Yamashita, A., Saeki, M., Matsushima, Y., Imai, S., Shimizu, T., Asato, M., Kuzumaki, N., Okutsu, D., Miyoshi, K., Suzuki, M., Tsukiyama, Y., Konno, M., Yomiya, K., Matoba, M. and Suzuki, T.: Sleep disturbances in a neuropathic pain-like condition in the mouse are associated with altered GABAergic transmission in the cingulate cortex. *Pain*, 152:1358-1372, 2011.
2. Takemura, Y., Yamashita, A., Horiuchi, H., Furuya, M., Yanase, M., Niikura, K., Imai, S., Hatakeyama, N., Kinoshita, H., Tsukiyama, Y., Senba, E., Matoba, M., Kuzumaki, N., Yamazaki, M., Suzuki, T. and Narita, M.: Effects of gabapentin on brain hyperactivity related to pain and sleep disturbance under a neuropathic pain-like

state using fMRI and brain wave analysis. *Synapse*, 65(7):668-676, 2011.

3. Yuji K, Matsumura T, Kodama Y, Murashige N, Kami M., Japan's health policy, *Lancet*. 376(9756):1900, 2010.

1. 児玉有子. 看護の「今」がわかる! NURSE TREND ここが押さえどころ 患者さんの医療費負担. *Smart Nurse*, 12(10):1102-1103, 2010.
2. 児玉有子. 看護教育現場の人材不足解消を 大学設置基準に見る異領域との違いから. *看護教育*, 51(6):486-488, 2010.
3. 宮崎東洋, 並木昭義, 小川節郎, 北島敏光, 増田豊, 巖康秀, 内田英二, 井関雅子, 的場元弘, 橋爪隆弘. がん疼痛に対する HFT-290 の第Ⅲ相臨床試験. *臨床医薬*, 26(9): 649-660, 2010.
4. 吉本鉄介, 久田純生, 余宮きのみ, 富安志郎, 長谷川徹, 村上敏史, 的場元弘. がん性疼痛に対する治療を目的とした複方オキシコドン注射液の有効性と安全性—多施設での処方調査—. *癌と化学療法*, 37(5): 871-878, 2010.
5. 宮崎東洋, 並木昭義, 小川節郎, 北島敏光, 増田豊, 巖康秀, 内田英二, 井関雅子, 的場元弘, 橋爪隆弘. がん疼痛に対する 1日1回貼付のフェンタニルクエン酸塩経皮吸収型製剤の第Ⅱ相臨床試験. *癌と化学療法*, 37(9): 1748-1752, 2010.
6. 今井哲司, 成田年, 富安志郎, 的場元弘, 木下浩之, 上園保仁, 葛巻直子, 鈴木勉. オピオイドの薬理学. *Mebio*, 27(8): 70-78, 2010.

(学会発表)

1. Hideya kokubun, Keniti Ebinuma, Motohiro Matoba, Misako Fukawa, Hajime Mastubara, Kazuo Yago, Population pharmacokinetic analysis of transdermal fentanyl in Japanese patients with cancer pain. *6th Research Congress of the EAPC*, 2010.6.12, Glasgow UK.
 2. M.Suzuki, M.Matoba, H.Sasaki, K.Terawaki, S.Ahiraishi, Y.Uezono, Development of a rat model for cancerous peritonitis pain. *13th World Congress on Pain(IASP)*, 2010.8.31, Montreal.
1. 大屋久晴, 村上敏史, 的場元弘. 卒後外科教育における緩和医療科研修必修化の経験. *第110回日本外科学会定期学術集会*, 2010.4.10, 名古屋.
 2. 三浦百合香, 国分秀也, 的場元弘, 金井昭文, 益田典幸, 尾鳥勝也, 矢後和夫. フェンタニルパッチのリザーバーおよびマトリクスタイプにおける薬物血中濃度の比較. *第4回日本緩和医療薬学会*, 2010.9.25, 鹿児島.
 3. 国分秀也, 三浦百合香, 的場元弘, 新井万理子, 松原肇, 矢後和夫. フェンタニルパッチによる呼吸抑制の実態調査および要因探索, *第4回日本緩和医療薬学会*, 2010.9.25, 鹿児島.
 4. 松永夏来, 的場元弘. 日本癌治療学会, 頭頸部癌に対する緩和医療. *第48回日本癌治療学会学術集会*, 2010.10.28, 京都.
 5. 鈴木雅美, 寺脇潔, 白石成二, 佐々木博巳, 的場元弘, 上園保仁. がん性悪質液の病因、臨床的意義とその治療戦略 (シンポジウム: 末梢性疾患発現における中枢神経機能制御: 中枢神経をターゲットとした新たな治療戦略) *第83回日本薬理学会年会*, 大阪, 2010.
 6. 鈴木勉, 今井哲司, 鈴木雅美, 的場元弘, 上園保仁, 葛巻直子, 成田年. マウスモデルにおけるがん疼痛の発症機構を基軸としたがん疼痛の薬物治療アルゴリズム: オピオイドの有用性 (シンポジウム: 難治性疼痛治療薬へのシーズ創出研究最前線) *第83回日本薬理学会年会*, 大阪, 2010.

(書籍)

1. 奥坂拓志, 的場元弘, 他. *膵癌診療ポケットガイド*, 医学書院, 2010.
2. 的場元弘, 他. *がん患者のための体と心の緩和ケア*, 社会福祉法人NHK厚生文化事業団, 2010.